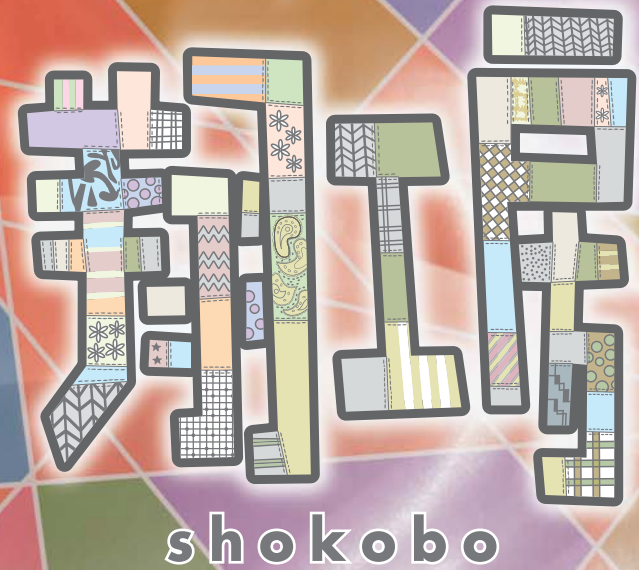


学生のアイデア ~~×~~ 匠の技

学生のアイデア  
~~×~~  
匠の技



## 学生のアイデア×匠の技

### 翔工房とは

アパレル製品を開発するためには、抽象的なアイデアやイメージを、テキスタイルやガーメントという具体的な製品に落とし込むという企画の力が必要となります。

翔工房は、ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生に対して、こうした企画力を早い段階から醸成する目的で創設されました。ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生にとって、創造するアイデア・イメージから実際の製品になるまでの一つ一つの現場や工程を目で見て、肌で触れることは非常に貴重な経験であり、将来の糧となります。

学生の斬新なアイデアを基に、学生と経験豊富な「匠の技」をもつ技術者とのコラボレーションによって、この世に一つしかないテキスタイルが生まれます。

果たしてこの素材から、学生自身はどのようなガーメントを製作するのでしょうか…

若者は未来の尾州を支える要諦です。FDCは翔工房を通じて、ファッション業界、何より尾州産地の将来のために、可能性に満ちた才知溢れる種をまきます。



合同ミーティング



生地製作



生地完成発表会

### 翔工房の流れ

ファッション産業を担う  
学生の製作

イメージ

デザイン画

テキスタイル

ガーメント

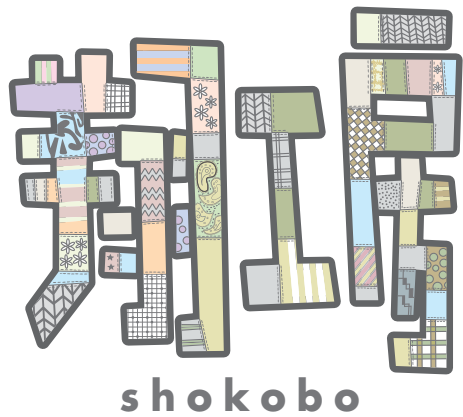
匠ネットワーク講師の  
マンツーマン指導

学生がイメージを基に、思い通りのガーメントを製作します。翔工房では、その素材となるテキスタイルの製作について、その糸から完成までの工程を、卓越した技術と能力を兼ね備えた「匠ネットワーク」のメンバーを講師として招聘し支援していきます。

### 平成26年度スケジュール

- 4月 学校を通じ参加学生を募集
- 5月23日 匠講師による書類審査
- 6月27日 プレゼンテーションにより参加学生の決定
- 7月23日 第1回合同ミーティング
- 7月～10月 テキスタイル製作
- 10月3日 第2回合同ミーティング
- 10月24日 第3回合同ミーティング
- 11月～12月 学生によるガーメント製作
- 1月16日 第4回合同ミーティング
- 2月4～6日 総展「THE 尾州」でガーメントの展示
- 2月5日 同展示会場での作品発表会「翔 the SHOW 2014」





もくじ

学生氏名 学校名 頁

Nature Blue

■ 中野 真里	京都嵯峨芸術大学大学院	7
■ 水野 友美	川島テキスタイルスクール	8
■ 伊藤 成美	京都造形芸術大学	9
■ 竹坊沙也佳	武庫川女子大学	10

Bright Colors

■ 岡部 朝菜	東京家政大学	11
■ 富松 明日香	武庫川女子大学	12
■ 外立 望美	椋山女学園大学	13
■ 近藤 志保	名古屋ファッション専門学校	14

Line Arrange

■ 奥村 有希	名古屋モード学園	15
■ 原 奈美	中部ファッション専門学校	16
■ 吉田 愛梨	名古屋ファッション専門学校	17
■ 小野島 桃子	岐阜市立女子短期大学	18

Fluffy

■ 小寺 真理	飯原服装専門学校	19
■ 河合 未来	愛知文化服装専門学校	20
■ 青木 亮子	名古屋芸術大学	21
■ 前田 かすみ	名古屋ファッション・ビューティー専門学校	22

Animals and Plants

■ 北沢 麻依	川島テキスタイルスクール	23
■ 北村 優子	京都造形芸術大学	24
■ 山下 真実	名古屋芸術大学	25
■ 木村 麻里	名古屋ファッション・ビューティー専門学校	26

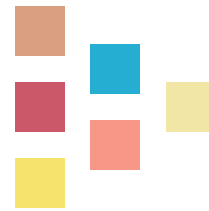
Check Pattern

■ 若山 愛子	名古屋モード学園	27
■ 根本 瑞希	中部ファッション専門学校	28
■ 細谷 侑加	岐阜市立女子短期大学	29

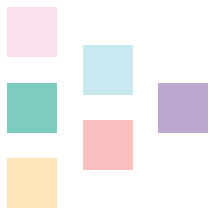
### Nature Blue



### Fluffy



### Bright Colors



### Animals and Plants



### Line Arrange



### Check Pattern





タイトル  
【にじみ】

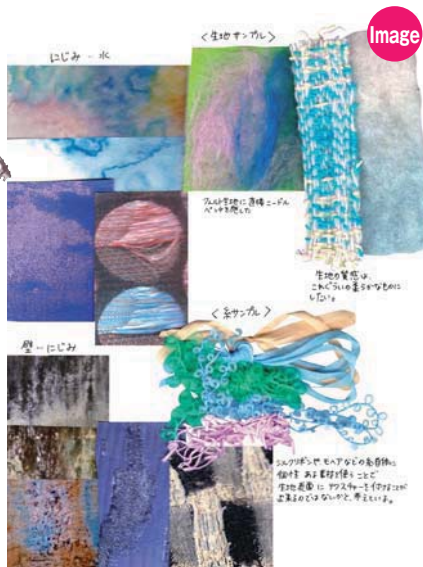
F.S



製作にあたって

紙にすずくを垂らしたとき、壁がだんだん朽ちていくとき、全てのものは時間の経過から「にじみ」が生まれます。「にじみ」という言葉から連想されることは、柔らかい、優しい、儚い、幻想的などが印象付けられました。また、ただ優しい印象だけでなく、静かな力強さも同時に感じることが出来ます。これは、長い年月をかけて出来る存在だからこそ、このような印象を与えることが出来るのだらうと感じます。又、この「にじみ」の印象から、私はとても女性的な印象を受けました。女性といっても「若々しい女性」ではなく、「母性」という印象を強く受けました。今回はこの「時間の経過」という言葉の表現を「にじみ」と言葉に置き換え、生地デザインに落とし込もうと考えています。生地の素材としては、2種類の生地を作りたいと希望しております。※どちらもウール生地をメインとして考えています。①肌触りは柔らかく薄手のショールの様な生地：色合いは淡彩、ふわふわとしたイメージ。生地に毛羽立ち、素材感を出すために生地に直接羊毛でニードルパンチを施す。②ボックススタイルの部分の生地：厚手のしっかりとしたコート生地：色合いは、濃色でくすんだ配色。この部分は「壁のにじみ」をイメージしているの、掠れた模様を表現するために縦糸、緯糸に少し工夫を入れたい。この2種類の生地に厚みや色合いの表現にメリハリを付けることで服地にしたとき、面白い作品になるのではと考えています。

B.S



当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージでは薄生地、厚生地ともプリントで染めをする予定ではありませんでした。織組織のみで「にじみ」のイメージをつくると思っていたので、自分の手で完成した生地にプリントをするということは、良い意味でチャレンジだったと思います。後染め独特の色みや生地の表情が、この「にじみ」というテーマに沿ってプリントという手法を選択したのは正解だったと感じます。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

普段、自分が行っている織組織の作り方と違い、渥美さんが製作してくれた織組織図はとても精密につくられていました。改めて、自分が今まで細部まで目を通していない部分があったかを見直すことが出来ました。プリント染めをする際、普段あまり染めをしないので製作中ハブニングが起きてしまい思うように進まなかった所に苦労しました。

- 協力/ツヤック(株)、東和毛織(株)、日比野毛織工場、(有)捲春、三星染整(株)、森保染色(株)、渡六毛織(株) (順不同)



①Alp68%、W32%



②W100%

タイトル  
【青が群れる】

F.S



製作にあたって

鉱物には様々な形状、成分の違いによる豊かな色彩がある。この鉱物というものは、自然の歪さ、「不規則な規則」という共通性に基づき、海や川、空や宇宙を感じさせるとても不思議な魅力を持っている。英名ラピスラズリ、和名瑠璃は深く彩度の高い青色の中に金色の黄鉄鉱が星のように散りばめられた美しい鉱石である。人類が利用した鉱物として最古のものであり、古代エジプト時代にはクレオパトラなど王妃がアイシャドウとして使用していたとされる。また絵画では、ヨハネス・フェルメールの「フェルメール・ブルー」がラピスラズリを用いた絵の具として知られている。天空の破片とも呼ばれるこの鉱石を砕いてつくる日本の岩絵の具の色名は「群青」で、青が群れてあつまるの意だ。優美さを感じさせる日本語の美しさと、天空の破片とまで呼ばれたこの鉱物の色彩の美しさをワンピース・コートの服地に落とし込みたい。この服地のポイントは「不規則な規則」なので、太細のある糸や、毛足の長いウールの糸で格子部分を盛り上げたい。全体的に凹凸した生地の中に、ラピスラズリ特有の星くずのような金色を、金糸が、金のフィルムを織り込んで表現させたい。この鉱石自体に色の濃淡があるので、糸をムラ染めしつつ、テーマである青が群れた濃い青色が散ってゆくようなグラデーションをつくり、青が群れる様を、また天空の破片をまとっているような美しい服を完成させたい。

Image



B.S



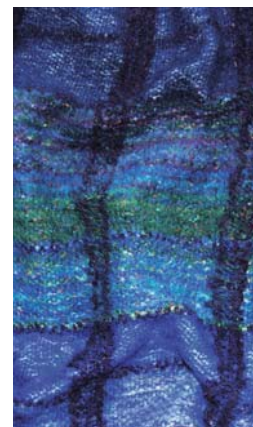
当初のイメージと製作した素材との比較

とても大きな柄の送りの表現でき、イメージに近いものに仕上がりました。ジャカードニットをメインに自分もデザインに関わり、もう一つの生地は川村講師の案で作って頂きました。どちらもガーメントのイメージに沿うものになりました。欲を言えば、もう少し毛足を長くしたかったです。(自分で起毛加工を施すことで解消します。)

新たな発見や学んだ点、苦労した点

学校では主に織りを学ぶ中、ニット製作に関わる機会を持ってとても良い経験になりました。この素材の特徴の1つである、大きな送りとランダム感を表現するのに苦労しましたし、様々な方に苦労をして頂きました。よこ糸がすくく飛びの編機にも負担がかかったりと、イメージ優先をしましたが、製作面ではあまり現実的ではないデザインだったのだと学びました。

- 協力/MKカンパニー、ゴトソニット(株)、藤井整絨(株)、山勝染工(株) (順不同)



①W75%、Moh20%、N5%



②W75%、Moh20%、N5%

Nature Blue

Nature Blue



## タイトル 【壮大な景色を夢見て】

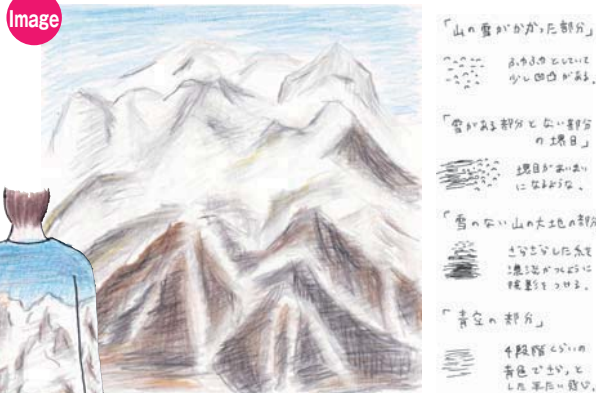
F.S



### 製作にあたって

日本アルプスの晴れた日の雪山をイメージした生地を作りたいと思います。冬の間、山脈にかかった雪がだんだん溶けはじめて大地が現れ出す春の季節の山脈は凛とした表情をしていて美しいと感じます。山は険しいけれど、頂上に登りそこから見える景色は想像もできないほどの壮大な景色が広がっているのだと思います。その壮大さを感じられる自然を身にまとい、その服を着たらすがすがしい気分になれるような服を作りたいと思い、今回山脈をテーマにデザインしました。素材は、山の部分は全体的に凹凸があり立体感のある生地に使いたいです。青空の部分は濃淡を4段階ほどつけ平面的なざらっとした生地に使いたいです。山の部分の雪がかかっている所は、白色のほどよくふわふわしたウールの糸を使用し、雪の質感を表現したいです。雪がある部分とない部分の境目は、境目が分からないようなあいまいな感じになるようにしたいです。また、大地の部分はざらざらした糸で、黒と茶、グレーの糸を使い、それぞれの糸を出す量を調節し、濃淡がつくように陰影を表現したいです。雪と青空、大地を表す糸の素材を変えることで質感の違いを表現したり、雪の部分にウールを使うことで冷たい風景だけどぬくもりのある表情の生地になればと思います。

Image

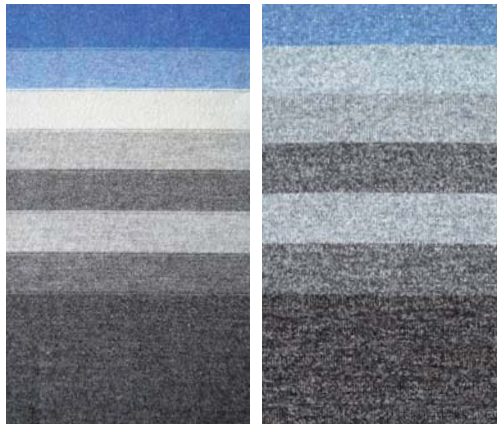


B.S



### 当初のイメージと製作した素材との比較

初めは、山のゴツゴツした形がコート一面に出るように織りで表現できたらと考えていましたが、織機を使ってパターンをつけずに一枚の生地の中で縦横を少しずつ変えて織っていくことは難しく、縞のグラデーションで山の景色を表現する方法で生地を作ることになりました。全体として見て、山のおおらかさは失わずに糸の素材を変えることで質感を出すことができました。



W83%、N13%、Alp4%

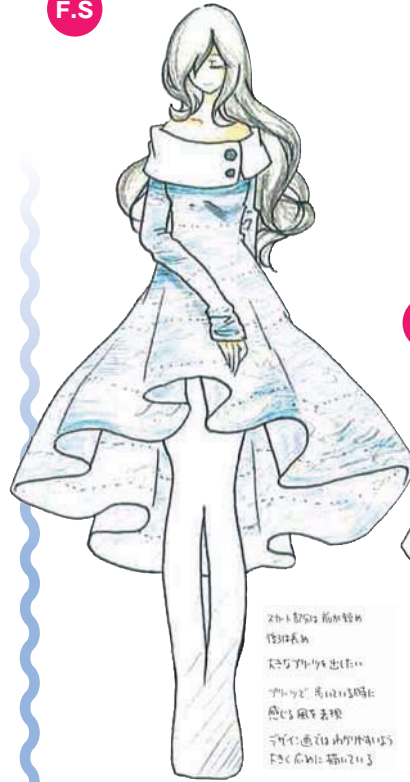
### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

山の形をはっきりと出すにはジャカード織りしか方法がなく、空と山を両方を一枚の生地として織る方法を考えることが難しかったです。三角形という形を織りで出す難しさや織機に入る糸の太さに制限があり、自由に変えることができない点など、基本的なことを学びました。

●協力/春日井毛織、(株)ソト一、東和毛織(株)  
(順不同)

## タイトル 【夜の散歩】

F.S



### 製作にあたって

「夜空」をモチーフにデザインしていこうと考えています。日が沈んだ空を見上げると、ただ暗い色で塗り一面塗り潰されているわけではなく、異なった色合いが時間帯、あるいは季節や日付により見られます。深みのある色、どんよりと重たい色、暗いながらもほんやりと明るい色。その移り変わりを表現するために藍や紺、納戸、群青、青、水色といった青ベースの色を数種類、または薄紫などイメージマップ内のイメージ画像のような青以外の色も少し混ぜた色合いにしたいと考えています。そのため、これらのような複数の色が混ざった糸、意匠糸を使用できればと思います。糸の素材は尾州の特産であるウールを主に使おうと考えています。生地自体は少し硬めに作り、衣装を作る際にしっかりとしたドレープを表現したいです。「夜空」の雲の部分は、白や灰などの色で、糸の太さがまだらになった意匠糸を使用し、所々にポイントとして出したいたです。もしくはニードルパンチで雲の部分のみ、後からフェルト生地などを貼るような手法を考えています。夜空の色の配置は、ただ適当に色を並べるのではなく、織り上げの際に全体がバランスよく表現したいです。しかし、そのためにはどのように織り上げていくのか、しっかりと配分を計算して考えなければならないので、非常に難しくなると思いますが、是非講師の方のお力添えを頂ければと思います。

Image



B.S



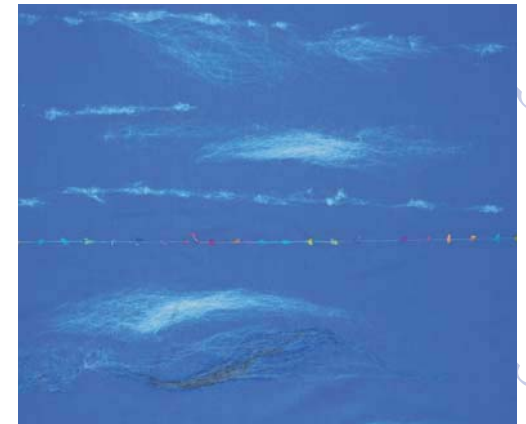
### 当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージは、濃淡の異なる青色でグラデーションを作り、その上から白いフェルトなどをニードルパンチでつけ、雲を表現したいと思っていました。しかし、グラデーションにするのは難しいということになり、代わりにニードルパンチで上からつける素材の種類を増やして頂き、より深みのある雲が表現されました。また、雲のつき方も1種類ではなく複数あり、切り取る場所で見え方が少しずつ変わります。

### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

書類選考の前から、グラデーションを表現することは難しいと考えていました。実際、グラデーションにすることは出来ませんでした。代わりに色とりどりの意匠糸と一緒に織り込んで頂けたり、単調だった雲に深みを与えて下さいました。当初のイメージ通りとはいきませんでした。イメージした雰囲気表現して頂きました。

●協力/(有)アルドーレ、(株)ソト一、東和毛織(株)、  
(株)パールスティック (順不同)



W98%、R1.2%、Alp0.6%、An0.2%



タイトル

## 【 fleurs 】

F.S



B.S



## 製作にあたって

作るテキストスタイルとしては、イメージは以下の通りです。・ほんほんと咲きみだれる花のかわいらしさ、春の暖かさ。服のイメージとしては、この2つをあわせたイメージ+やわらかな日射しや風のイメージ。ピンクの布地はポコポコとしたもので、花がまとまって咲いているイメージとあたたかさを出していきたい。また、この布を作るうえで、色に少しむらを出し、より花が咲くイメージを出していけたらと考えています。ほこほこした感じを出すため、織り方だけでなく、ストレートヤーンにあわせてネップのある糸を使用してみるのはいかがでしょうかと考えています。袖や首まわりの部分は布は花模様のレースで、花部分が少しうき出るようなイメージです。できるなら、たまに花びらの枚数が違うものをまぜることができるとおもしろいと考えています。また、生地になじむわりとした質感をもたせ、柔らかさと暖かさが出せればと思います。天然素材を使用することで、自然のあたたかさややわらかさ、着ごこちのよさを出していくことができればと思います。

Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

初めは1種類の布のみをつくっていたが、ワンピースをつくるにあたり、上下で違う布にしてみるのはいかがでしょうかという話をしていたら、2種類の布をつくることになりました。こちらの布のイメージは様々な色・種類の糸を使い、咲きほころぶ花々のイメージを出し、かわいらしい印象に仕上げたいと考えていました。製作したイメージは、はじめの私のイメージに近いものであり、やわらかくかわいらしいものができて、とても満足のできる仕上がりとなりました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

この企画に参加したことにより、改めて他人への自分のイメージを明確に伝えていくことの難しさを感じました。また織りでどのようにして元のイメージを表現していくのを考えていくうえで、グラウンドをどのような生地にしていくかを明確にし、伝えていくことが最も大切であると学びました。テキストスタイルをつくるうえで、プリントなどではなく、織りでも十分に様々なものを表現していくことが可能であり、考え方で様々なものをつくりあげることができるということは、新たな発見があったと感じています。

●協力/ 鶉銅毛織、(株)ノ一、東和毛織(株) (順不同)

W62%、N36%、An2%

タイトル

## 【 光の交差 】

F.S



B.S



## 製作にあたって

私は、ライブ会場などの照明がすごく好きなのでそれを布に、服に表現したいと考えています。その照明の光は、出だしの部分は光が強く、色も濃く見えますが、距離が遠くなるほど光は弱く色はうすくなります。また、何色もの光が速い距離でかさなると色がまざったり白っぽくぼやけて見えたりします。そういう光の濃淡、屈折などを衣装で表現したいと思っています。光は直線で見えるので布でも直線的に織り込みたいです。光の透明感を表す為に直線の部分は、化学繊維で透け感を出しその直線のまわりの部分は、その直線部分を目立たせる為におとなしい色でニュートラルカラーあたりを織りませてそのライブ会場に来ていた大勢の人、人ごみ感を出せたらいいと思います。直線の光の部分は、赤、青、黄の色の三原色で化学繊維に少し金属繊維も加え輝きをもたせられたらいいと思います。織物としては少し単純な形かもしれませんが、その複数の織物が、衣装上で重なった時に、光が混ざるように、織物の化学繊維部分の色が混ざりまた新しい色に見えるように構成したいです。尾州産地さんは、化学繊維複合織物の開発にも力を入れてらっしゃるので、是非この織物を作っていたらいいと考えています。

Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

だいたいイメージ通りに仕上がりました。最初のイメージとの変更点でいえば、1つ、光のラインを斜めに入れる予定でしたが、斜めに入れて織り上げることは不可能に近いということでポスター状にしたことです。ですが、1番自分が大事にしたいポイントは光の部分の透け感と光部分の布が数枚重なった時に色に変化しているように見えることで、そこは上手く表現できたのでよかったですと思います。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

私がデザイン画を描いた時はこのような布があったらいいというイメージ、色、形だけで考えていましたが、その布1種類を製作するにしても燃糸の種類、密度、混用率など考えなければならぬことはたくさんありました。またその選択肢も多く、それを想像上で決定することが大変難しかったです。しかし、渥美さんから何度もアドバイスをして頂きイメージ通りの布に仕上げる事ができました。織物が想像のイメージから実物になるまでの奥の深さを勉強できたように思います。

●協力/ 三星染整(株)、渡六毛織(株) (順不同)

①Cu37%、Vi27%、N18%、Pe16%、Pu2%

②R51%、Cu25%、N13%、Pe10%、Pu1%



タイトル

【光に包まれたぬくもり】

F.S



B.S



製作にあたって

素材デザインとしてはウールとその素材を引き立たせるような異素材のものを融合させたドレスをイメージしています。面積比としては体を包みこむ大部分をウールのしっかりした生地で作ります、その他の装飾としてウールの特徴とは逆の異素材の生地を取り入れようと考えています。使用するウールの素材としては、少し厚みのあるもので、糸は太めで、どちらかというと重みのある生地にしたいです。目は細かくしないで主に糸の色は白をベースとします。そこに蛍光色をいくつか織り込んで目の間から見えるようにします。裏が見えるデザインなので表と裏で違う色にしたいです。表は先に述べたように白をベースとし、蛍光色の糸が目の間から見えるようにして、裏はその蛍光色が全面的に見えるようなカラフルな生地仕上げたいです。装飾に使う部分の生地は薄手の少し透けるようなドレープ性のある生地を使用したいです。腰のあたりからひざにかけて膨らみをもたせるイメージです。メインの生地に対し異素材の糸を織り込み、生地とドレス全体、共に上手く異素材の融合ができたらと思います。



Image



裏面の柄や色は、表面からは、この柄や色が透けて白に見え、透ける感じ。

リボンの装飾部分は、透ける素材で光と空気を採り込んだイメージ。

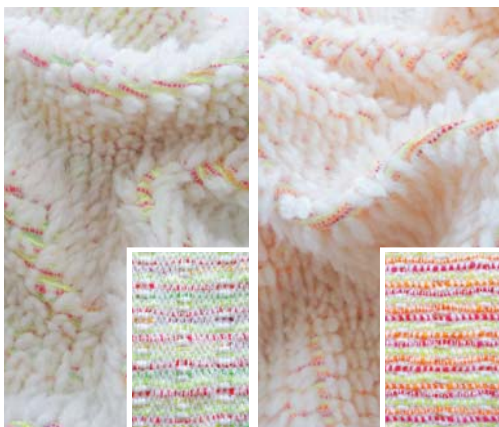
ウールの部分は、拍のふわりとしたぬくもり感と、厚みのある糸の強さを併せ持つイメージで、毛羽を自然の光と空気が包み込むという透ける素材で表現。

■ 当初のイメージと製作した素材との比較

表面は白い毛羽立ちのあるウールの隙間からカラフルな蛍光色が見える状態になっているのでイメージ通りに出来上がった。予想外であったのは蛍光色の糸のみで作成したものと、かすりを混ぜたものの2パターンを作成したことだ。2パターンのうち1つは表面もイメージ通りで、もう1つは少し色が薄めである。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

糸糸は組織上、5色配色するのは難しいということがわかった。そしてその場合はかすり色という1本の糸に何色が混ざったものを代用することが可能。ウールのみでは蛍光色は染まりにくい。毛羽立たせるためには、手作業で行うこともある。これらをふまえて、色の配色やどのように均一に毛羽を出すかなど細かな部分に苦労した。



W75%、An25%

●協力/ 鶴飼毛織、(株)ノ一、東和毛織(株) (順不同)

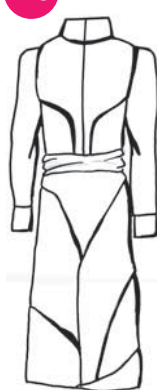
タイトル

【STAINLESS KITCHEN】

F.S



B.S



ステンレスの柄を利用して、メッシュ生地、毛羽立ちの生地、ステンレスの光沢感を表現するために、ステンレスの柄を織り込んで表現。

製作にあたって

デザインイメージは、ステンレスです。ステンレスや金属などの光沢を出すためチュールなどに使用されている糸と、やわらかいウールをおりこみます。シャンプレー効果のように自然と光沢感が出るようにする。光沢のある糸とウールのようにやわらかい糸を混ぜ、どこまで本物のステンレスのようななめらかな光沢感を出せるのかというのを、体験してみたいです。ウールと混紡させることによって、ハリのある素材には出せないなめらかさがでて、よりステンレスに近いものが生まれると思います。またきりかえる生地は、同じベースに刺繍をします。刺繍の柄は、ステンレスの出す独特な光沢と影をイメージした曲線を重視した柄です。柄の白線は、きりかえの曲線となじみをよくさせるためでもあります。

Image



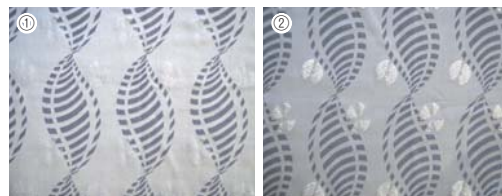
■ 当初のイメージと製作した素材との比較

当初イメージしていた、生地全体に流れるような曲線は、ジャカードの織り機で織れる柄の大きさの限界の関係などでイメージよりは小さい柄に仕上がりましたが、ベースの生地の色とのバランスでイメージした生地により近いものになったと思います。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

緯糸には、ポリウレタンを含んでいる生地にしていただいたので、仕上がり後の縮率まで計算せずに柄をつくったので、完成した生地は柄が少し細長くなりました。すべての工程や素材の特徴を理解した上で生地をイメージしなければいけないのだと思いました。

●協力/ (有)アサヒ紋工所、(株)ノ一宮事業部、中隆毛織(株)、尾泉染色(株)、(有)レナード (順不同)



W51%、Pe31%、R16%、Pu2% (柄部分 Pe68%、N32%) (①・②共通)



③W51%、Pe31%、R16%、Pu2%



## タイトル 【煉瓦造り】

F.S



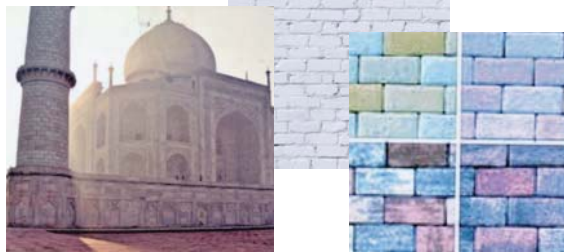
B.S



### 製作にあたって

- ・ツイード：細かいツイードではなく、レンガに見えるようなテープ状のツイード。
- ・軽さのあるツイードが作りたいので、一部に和紙系を使用したい。和紙系は、非常に軽い素材で通気性も良く、春夏ものに向いている。また吸水性、吸汗性もあるので、着心地の良い素材になる。
- ・サマーウールのシャリ感などを用いて、生地に落ち感を出したい。
- ・カラーイメージは淡いイメージのグラデーション。

Image



### 当初のイメージと製作した素材との比較

糸の染めは最初のイメージから見ると、だいぶ濃く上がっていましたが、実際、経糸と緯糸を合わせると自分のやりたかった淡いイメージに近くなりました。

### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

染め方、織り方には何通りもあって、自分の表現したいイメージをいろいろな視点から説明出来る事が大切だと思いました。実際に織機で織る所を見せてもらって、試行錯誤しながら考えて作るという事が体験できて良かったです。

●協力/ 鶺鴒毛織、(株)ノ一、東和毛織(株) (順不同)

Ly70%、N30%



## タイトル 【sou・装】

F.S



B.S



### 製作にあたって

衣服は元々身体を保護するために生まれました。しかし現代では生理的、社会的な意味だけではなく、「装う」ことで生活を美化しようとしたり個を主張しようします。また日本人が古くから親しんできた書道も、もともとは実用として生まれた文字に美しさを見出そうとしています。更に書道は趣味として人々の心を豊かにし、書く方にも見る方にも感動を与えることができます。私は、衣服と書道には共通の美しさがあるのではないかと思います。なので、今回「衣服と書道」をテーマにオリジナルテキスタイルとガーメントを制作します。素材のデザインは書道の和紙と墨がイメージです。光沢の無いざらっとした和紙に文字を書いた時に、墨が滲んでぼやける様子を表現したいです。ガーメントは直線的なデザインなのでハリのあるシャープな素材にしたいです。また春夏スタイルなので涼感のあるさわやかな感触にしたいです。

Image



### 当初のイメージと製作した素材との比較

最初のイメージは日本的なイメージでしたが、完成した素材は少し洋風なイメージになりました。竹や紙を使ってコンセプトに合うように製作しました。

### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

黒のラインを不規則にゆがませるのがなかなか組織では難しいんだなと思いました。楊柳組織でやってみました。近くで見るとゆがんで見えるので、さりげないポイントになったかなと思います。

●協力/ 茶仙染工(株)、レマン(株) (順不同)

Bb84%、N16%

